

# 施設内の感染防止対策

---

障がい福祉施設向け 新型コロナウイルス感染症研修会

2020年8月7日(金)

千葉県がんセンター 感染管理認定看護師 前田佐知子

# ミッション

---

1. 利用者及び施設職員の健康状態の確認と異常の早期探知
2. 外部派遣職員：千葉県職員（本部、看護）、船橋市職員（本部、介護、看護）、同一法人職員（介護）の2次感染防止

# 看護師の派遣

---

- 派遣期間:3月30日から5月8日まで
- 派遣人員:病院局から合計15名の看護師を派遣
- 派遣看護師の業務内容
  - (1)24時間体制で施設利用者の健康観察を支援
  - (2)施設内感染防止対策の実践に関する支援
    - 個人防護具の着脱支援、環境の管理、ケアの工夫助言

# 感染防止対策への支援強化

---

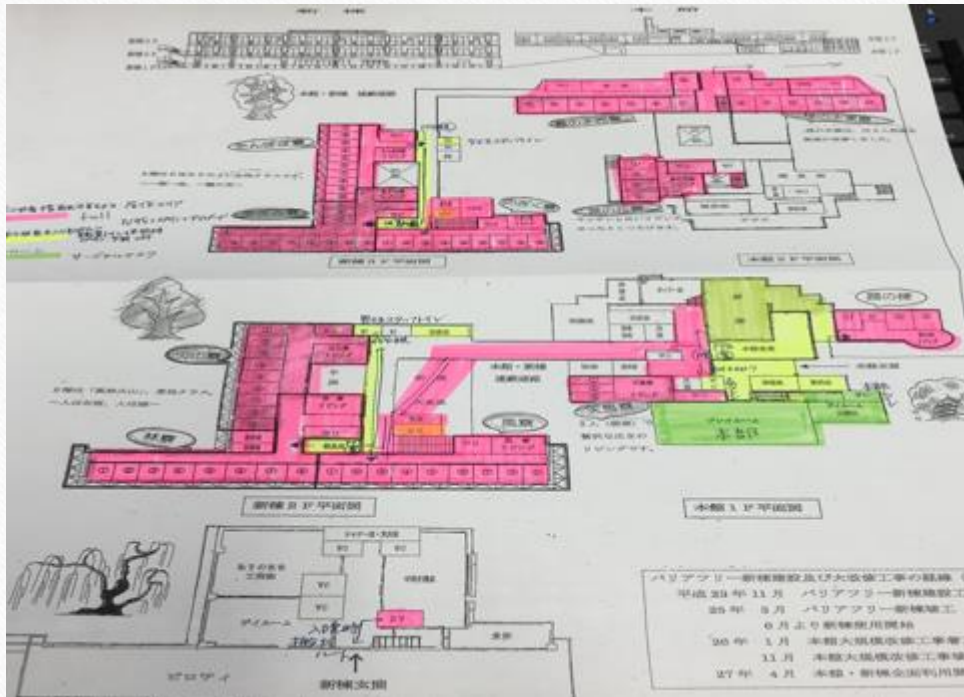
- 当初、感染管理認定看護師数名を2～3日のみ派遣する計画
- 現場の混乱が大きく、感染防止対策のミスが起きやすい環境  
介護者6割不在、入所者60名強が施設内経過観察
- エラーを最小化しなければ、介護崩壊・2次感染につながると判断
- 病院局に体制強化の必要性を報告⇒感染管理認定看護師を定期的に派遣する体制が実現。5病院から6名の認定看護師をはじめの1週間に集中的に投入。2週目以降は、1名を定期的に派遣、もう1名をシフトに

# 実際の活動内容

---

1. 施設内区域管理の維持管理+職員の健康管理
2. 施設内利用者の健康管理

# 施設内の区域管理(ゾーニング)

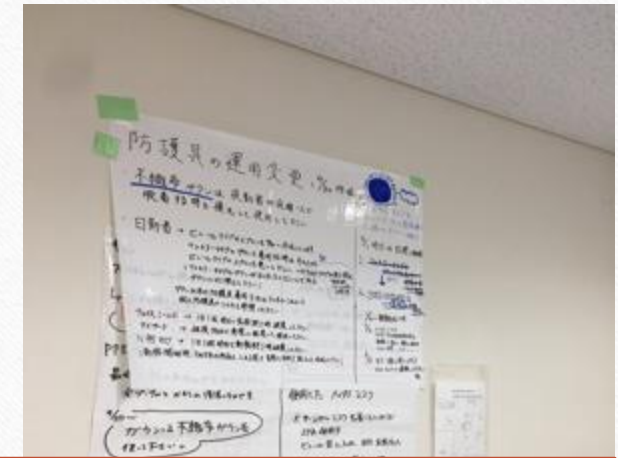


- 施設内利用者が行動する範囲を**感染区域**(レッドゾーン)
- 施設職員と外部支援職員が行動する場所を**中間区域**(イエローゾーン)  
個人防護具の着脱ポイントはここに設置
- 本部は**清潔区域**(グリーンゾーン)  
資材保管、外部支援者はここで休憩や食事

# 実際の防護具ルール

清潔区域	中間区域	感染区域
ユニバーサルマスク ング（常時マスク装 着）	マスクのまま移動 防護具着脱支援・器 具除染・環境整備の 時は、使い捨てビ ニールエプロンと手 袋	フル装備 N95マスク キャップ 長袖ガウン フェイスシールド 手袋

# 個人防護具の着脱支援



個人防護具は、供給されるものが、その都度変わるため、その場にあるものを、どのように使用することが最適なのか、常にリスクアセスメントをしながら、手順化した。確実に行うことが理解できるよう、壁に掲示し、かつ口頭で繰り返し説明をしていた



# 職員の健康管理支援

氏名	勤務	解熱・鎮痛剤服用	体温	咳	味覚・臭覚障害	下痢

- 左図のようなシートを1日1枚運用
- 非接触式体温計で検温し、慣れるまでの間は、看護師が職員入り口で項目に沿って声をかけて確認
- 就業中においても適宜、声をかけて体調に変化がないか確認

# 施設内利用者の健康管理

---

- 医師の診療タイミングに合わせ、日中と夜間の複数回、検温を実施。最終的には、1日2回の検温を定番化
- 利用者は防護具を着用した見慣れない人物が計測することに当初怯えていたが、複数回接するうちに双方が慣れて、スムーズにチェックを実施することができるように
- 非接触式体温計とパルスオキシメーターを使用。呼吸回数や飲食、排泄の状態、日頃の活動状況を総合して判断し、医療提供のタイミングを見逃さないようにした

# 評価

---

## 1. 成功した点

- 外部支援者への2次感染が発生することなく、支援期間を終了
- 入院での医療が必要な利用者は搬送、施設内療養の利用者の命を守れたこと

## 2. 困難だった点

- 感染対策上必要な物資の確保と、都度変化する資材への対応
- 利用者にとっての日常が一変する中、感染対策と生活支援の両立  
お気に入りの身の回りの物や、シーツ類の取り扱い、清潔保持の援助

# 教訓：新型コロナウイルス感染症は、 突然にやってくる（気づかぬうちに）

---

1. 外部からの持ち込み防止＝職員の体調管理。体調不良時は休養
2. 基本的な感染防止対策を日頃から実行。業務中はマスク着用を
  - 石けん流水手洗いを飲食前・トイレ後に利用者・職員ともに実施
  - 利用者の生活支援が連続する場合には、手指消毒を徹底
  - 体液・排泄物等には直接触れないように、手袋を利用者ごとに装着
  - 人の手がよく触れる環境表面は、界面活性剤を含む洗浄剤で清掃
3. 利用者・職員がそれぞれ発症したときの想定訓練をぜひ！